



TITLE:

京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 No. 31

AUTHOR(S):

CITATION:

京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 No. 31. 京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 1955, 31: 67-76

ISSUE DATE:

1955-04-04

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/186848>

RIGHT:

録 事

今月は雨天が多かったのが気づかれたが、案に相違して団体客は依然として多く、入場者は4万人を越える盛況を呈した。29年度を通算すると、予想をはるかに越えて28万5千人となり、毎月平均2万人といったところであろう。本年度は大した災害もなく、死魚も少なく、すべてが比較的順調にいったことと相まって、この景況を見たことは同慶のいたりである。

しかし、一方において、ひとり戦が施設のみが旧態依然たるまゝでは、早晚観客からも飽きられ、今日の名声を保持することができないのは、必定である。そこで別項にもある如く、現在これが大改修の機運にあることは云うをまたない。しかしノ兆円予算にしばられた国費に依存することは期待できないので、除々ながら自力で改修を進めてゆかなければならないのが、いつわらざる実状である。これがため収益は蓄積して、改修10年計画実現化のための資となしなくてはならない。

月半は俱より、災害復旧費による海水取入口(A導水管)の修理と、構内における給水管鉄管の鉛管及びビニール管による取替工事が進行中である。

宮地会長(実験所長)が4月中旬よりローマで開かれる国際臨海実験所会談に出席、更に引きつゞきソビエト國の招聘による海外旅行に出発され、4~5月は不在となるので、是に3月19日に1955年度の第4回委員会總會が開かれることに決まつた。そのため議題の提出はやつとその日に向に合わせられることになり、1954年決算書や1955年度予算書も暫定報告として審議されたが、前者の正式

のものは本号に掲載、後者の掲載は次号となるだろう。

議事は予定の如く進められ、8時間を要して慎重に討議された。その結果、本号を最後として予算、決算書及び毎号の月報に示される経理項目が全面的に改められることになる。最大の改革は今までの項目立てであったことが、経常部と臨時部とに分割されたことである。なお、この機会に、奨学金制度を新しく取上げたこともひとつの収穫である。

議決に基づいて、内海委員が来年度も常務委員を仰せつかることになった。

水族館の公開時間については明光バス会社と種々折衝の末、つぎのように取決めることに落着した。

(水族館)

1. 年中無休
 2. 自 12月1日 午前9時——午後5時
至 3月31日
 3. 自 4月1日 午前8時——午後6時
至 11月30日
- (但し 6—8月の夏期に限り南館時間)
を30分延長する。

(博物館)

1. 無料公開
2. 自 12月1日 午前9時——12時
至 3月31日 午後1時——5時
3. 自 4月1日 午前8時——12時
至 11月30日 午後1時——5時

この規定は4月1日より施行することとし、各館入口に掲示すると共に、各旅館・学校・タクシー会社等に通告した。

29日には1954年度を終る恒例の振興会慰労会が実験所及び水族館全館で古賀の井において行れた。

20日左海館員の母堂が死去された。本会として心からなる哀悼の意を表する次第である。

1955年度委員会記録

時日： 昭和30年3月19日 9—18時

場所： 京都大学瀬戸臨海実験所特研会議室

出席者： 宮地会長、峰尾委員、高岡委員、内海委員、
時岡委員、山路委員、布施助手(オブザーバー)
岩城監事、生駒監事

以上 9名 (南委員 本田監事欠席)

記

1. 議事に先だつて

水野氏の後任として新たに監事を委嘱された生駒正教氏を会長より全委員に紹介。昨年9月より実験所助手として在住の布施慎一郎氏がオブザーバーとして出席することを承認、本年度より委員の一員として加えること了解なる。

各委員及び監事の任期は、正式には昨年9月を以て終るが、自効的に重任されたことも満場一致で承認さる。

2. 監査結果及び予算案について

イ、新聞代などを厚生費に含めるのは不可。雑誌に類する小冊子なども、経費的に購読するものではないから、消耗品として取扱うを要する。ロ、これらの費目取扱いは、本年度から官庁や事業体で採用する一般様式に則り、新たに予算及び決算書を作成することとし、之に基づいてあてはめてゆくようにしたい。

ハ、実験所側以外の委員より水族館務担当の委員及びその他の役員に手当を支給することの提案あり。

ニ、実験所側委員より厚生費項目の設置及び之が増額の提案あり。

之に對し、29年度は1人あたり3000円として、總額 39,000円を

追加、30年度は1人あたり5,000円として、總額 65,000円を予算

に計上することに可決。

ホ、本年度より奨学金制度をつくり、学術研究者の研究援助もする。さしあたり1名1年につき6万円2年経続支給が適当であろう。

ヘ、従来一般経費（水族館）、実験所費、博物館費としたものを經常費とし、水族館改善費を臨時費と改める。

ト、その他細目に関しては大綱を京大理学部事務室で立ててもらい、之に準據して各季費の案と実行季費に持ち寄り、本年度の実行予算を組むことにする。

チ、提出された予算案（前年度の様式にならってつくられた）は一応了解。しかしすべては新しい様式の下に作られる実行予算案によって決定される筈。

3. 水族館改修長期計画案の審議

別項記載（附3）の「水族館改修の前提として博物館を平屋化する計画」が起草者時岡季真によって説明さる。審議の結果、その大綱については一同異議はないが、先決問題は関係官庁の許可にあるので、早急に予算を組立てるは勿論、部分的実施に取りかかるは無理であろうとの意見強く、でさうる限りその実現を促進するため大学当局及び季真側で関係官庁に働きかけるよう努力することに衆議一決した。しかし、これがたわの積立基金は予定しておく。

4. 1954年事業報告について

時岡季真より種々の批判ありしも、実施されたことは總べて年々良くなっていくことの証左として了承。

5. 水族館改善付帯事業案

イ、防火設備——是非必要なことなので予算に計上する。

ロ、海亀プールの廻遊路——利用度の奥及び観覧不便の奥などについて更に検討を要するので一応保留とする。

ハ、博物館前砂利道の改裝——排水方法を改良し、巾1m厚さ7.5cm

に中央を舗装する。

ニ 水族館に通ずる兩道の改修——下の道は巾1.8m厚さ14cmのコンクリート舗装、上の道は盛土砂利敷に改修する。

ホ 防風植林——一応演習林の柴田信男氏に植林計画を依頼する。
(註——後日交渉の結果によれば、苗木の都合で来年度の植付が適当である由。)

ヘ パンフレット及び繪業書の発行——パンフレットは売れる見込みは少ないが繪業書ならば教組作ると要する。計画が具体化してから漸次実行に移す。

ト 以上の改善事業案は長期改修計画の本年度内における実現化が不可能な場合を予想しており、まれたものであるから、本年度予算に計上するとしても、水族館——博物館改修計画の進捗状況と勘案しながら実施する必要がある。

チ 山路委員より船場島の施設提案あり。水族館改修計画とは別に年50万円積立てること了解なる。

6 規程改正の件

規程才6條の一部改正について内務委員より提案がなされたが、実験所長が水族館長と兼ねることは習慣的な処置に過ぎず、これと規定の上で成文化するには、官制上の問題が残されているので、その処理は大学当局に研究してもらうことになった。

これより発展して、次のチ1條の改正が議決された。

イ 才5條の「委員 2名以内」を「委員 10名以内(うち1名は水族館の常務を掌る)」と改める。

ロ 才6條の改正は上述の如く提案とする。

ハ 才7條のうち「京都大学理学部取置のうちから6名以内」を「京都大学理学部取置のうちから7名以内」に、「白浜町及び白浜観光協会より推薦によるもの各1名」と「白浜町、白浜観光協会及び瀬戸部より推薦によるもの各1名」と改める。

- ニ 才8條のうち「京都大学取資以外から1名」を「白浜観光協会から1名」と改める。
なによりこの改正にともなつて本年度より
実験所側委員として布施 慎一郎氏が追加、推薦された。

7. 常務委員の交代

本年度も内海委員が重任することに伏定。

8. 公開時間制度

この事は昨年度委員会の時も水族館側より強い要望があつたが、町側委員の希望もあつて一応撤回された。しかし無制限な公開は館側の支障を来たすので、連席切符制の関係上明光バスと
開成時間は打ち合せて後伏定する。

9. 水族館取資の待遇改善

- イ 休日勤務手当は月のうち3回は150円を200円に上げ、残る1回は
休日は取資は了解の下に出勤する場合300円を支給することに伏定
- ロ 多忙で手不足の場合は part-time 制も考慮する。
- ハ 退職金の横立方法を改め、新たに職員退職手当支給規約を
制定する。

10. 番所山植物園よりの申出で

- イ 水族館出口より植物館入口までの舗装部分の拡張は申出通り
許可。
- ロ 海岸道の復旧了承、実施にあたってはできるだけ視覚的なものと
するよう実験所側で指導する。

11. 町及び観光協会への要望

隣接地にできると噂される 梅女作業実演場の性格については、
町側委員と実験所側委員との間に意見全く対立。

実験所側でむしろ指導するようにすれば、風儀上の問題は起
らぬではないかとの峰尾委員の意見もあるので、設立当事者に
まで大学側の危惧する裏を徹に申入れるよう同委員に依頼するこ
とによつて了解なる。

業 務 概 況

◎ 3月の入場者数

区 分	水族館発売数		明光バス発売数		合 計	
	本月分計	黒 計	本月分計	黒 計	本月分計	黒 計
大 人	8946	61131	18445	135355	27385	196486
小 人	627	5020	302	2665	929	7685
団 体	11757	80443	—	—	11757	80443
合 計	21324	146594	18747	138020	40071	284614
無 入 場 者					30	1348

◎ 3月の収入

(黒 計) —

観覧券売上金 731,341 5,166,963

雑 収 入 13,403 35,110

2月よりの繰越し 845,849

計 1,593,593 5,202,073

◎ 3月の支出

一般経費

費 目 別	金 額	黒 計	備 考
人 件 費	52,444	669,128	
光 熱 費	24,100	165,253	
消耗品費	29,715	80,038	
備 品 費	22,665	51,895	
修 理 費	4,090	82,795	
資 料 費	20,330	199,210	
厚生費	46,260	75,608	
借入材料費	33,385	33,385	2991~30,331
諸 税 公 課	200	4,051	
租 賃	550	15,440	
通信運搬費	1,856	19,818	
研 究 費	—	20,000	
旅 費	—	1,320	
合 計	235,595	1,417,941	

水族館改善費

項 目	金 額	黒 計	備 考
合 計	—	314,724	

実験所費

費 目 別	金 額	黒 計	備 考
印刷費	—	450,000	
備 品 費	33,200	211,400	Terminichia I-IX
設備修理費	—	464,600	
特 別 費	—	11,720	

消耗品費	125,540	125,540	標準瓶
合計	158,740	1263,260	

博物館費

費目別	金額	累計	備考
人件費	4,600	51,585	
消耗品費	—	170	
修理費	—	6,330	
備品費	—	22,765	
旅費	—	460	
印刷費	50,000	50,000	1954年度昆虫標本
合計	54,600	131,310	

積立金

費目別	金額	引出高	現在高	備考
入会費減金	2,100		187,400	
賞金	9,100		66,528	
厚生	1,800		10,222	
災害時予備金	135	15,000	622,056.50	貸金返済76,000×6
会計費積立金	20,000	23,232	17,633	30.3.19本委員会期
積立基金	1,022,390		1,761,142	
合計	1,062,225	38,232	2,664,981.50	

支出合計

		(累計)
一般経費	235,595	1,417,941
水族館改善費	—	314,724
実験所費	158,740	1,263,260
博物館費	54,600	131,310
積立金	1,062,225	2,071,194
計	1,511,160	5,198,429

3月末現在高 82,433

支出累計 5,198,429

◎ 前年度との比較

	1954	1955	増減
入場者数	31721	40071	+ 8350
売上金	569,197	734,341	+ 165,144
支出金	548,249	1,511,160	+ 962,911

水族館記事

◎ 2日屋外プールのアカウミガメ / 匹が遂に死亡。

- ◎ 5日 3隻目以上も巨大なカンダイ 3匹ノ匹入り。先月に入った稍小形のものと一緒に、すこぶる元気で No. 24 の水槽中を遊戈し、一番の人気者になっている。
- ◎ 巨大なものとしては体長 70cm 以上もある アンコウ が 26日 No. 30 の水槽に入ったが、尾部の皮膚のむくれたのがたんだん前方に広がって、惜しくも 3/11 死せした。こんなに大きいものは珍しいので、ホルマリン漬として保存する。
- ◎ 16日 アサヒガニ 2匹 モンゴ 1匹 サバフ 2匹が入り更に今月中に多くの魚類が入槽。水族館は一年中で最も活気を呈している。観がある。以上のほか今月中に入荷して現在俯瞰水槽等と賑わしているものには次のようなものがある。

<u>アカエイ</u>	6	<u>ガンギエイ</u>	1	<u>シビレエイ</u>	3
<u>ドナザメ</u>	3	<u>サカタザメ</u>	2	<u>カスザメ</u>	3
<u>シロザメ</u>	1	<u>ムシグレ</u>	3	<u>ホオボオ</u>	13
等					

- ◎ 昨年暮に水槽に入れた ハマチ 10匹は餌つきすこぶる良く、1匹も死ぬるものなく元気であるが、一昨年の初頭から館内の人気者のひとつになっている エビスダイ の1匹が最近になってから急に餌を食べなくなり、瘠せてきた。
- ◎ 館身休養のため裏の予備室に寝台をそなえた。

資 料

- ◎ 3月の気象

	上 旬	中 旬	下 旬
晴天日数(12)	5	4	3
気 温 (C)	8.8 — 14.0 12.0	10.0 — 17.3 13.7	12.4 — 16.8 14.1
水 温 (C)	12.8 — 14.4 13.7	13.3 — 15.7 14.4	14.7 — 16.1 15.5
比 重	25.0 — 26.0 25.5	25.5 — 26.0 25.8	25.0 — 26.0 25.6

但し { 気温は南水槽室
水温 } 7/10時に測定
比重 } はNo. 25水槽

昭和30年4月4日発行 (No. 31)

編集兼
発行人

内 海 富士夫

発行所

瀬戸島海実験所振興会
和歌山縣・白浜町
瀬戸島海実験所内

(電話 白浜 515)